

特集 ④

自分の経験を活かした起業

女性が暮らしやすくなるために私たちがはきつと
変わる必要がある

今治ママ★コレ 代表 菊川 あずさ (今治市)



■活動がスタート

さくらコットンをはじめて3年、ママ★コレをはじめて5年。そして、北海道から越えてきて10年になりました。私は愛媛に来て本当に良かったと思っています。

私が、39年生きてきて、人並みに苦労したことも、大変だった子宮内膜症の経験も、全部が無駄にならなかったことが私にとってすごく救いになりました。この会社は、今治であつたからこそ、できたと思っています。

友だちが欲しくて作った女性の異業種交流会と県外人嫁の会が原型になり「ママ★コレ」ができました。今治市の助成と女性起業家に協賛してもらってフリーペーパーを発行。そして、女性が暮らしやすくなるために、勉強会をして、ソフトな組織を作ってきました。なぜかメンバーの中には発達障害があるお子さんをお持ちの母さんが多く、講座の講師が「NPOふちすつてぶ」の安原優子さんだったことや、ママ★コレの編集をしてくれている豊島吾一君がフリースクールの先生であつたことが縁でなんとなくこういう形になっていきました。私たちの役割はあくまでも「前向きで、ちょっと困っている人の役にたつ」というのを決めて活動するようになりました。その中で同時に彼女達に仕事を渡したいと思うようになりまし。言葉の端々に働きたいという気持ちと、子育てや家族のことで疲れが出ているのが手に取るようにわかりまし。

仕事を作るといっても、考えても考えても答えは出ません。簡単にものが売れる時代ではないこともわかっていました。ただ、もしできるのなら地場のものを使いたいと思っていました。そんなとき、愛知県で可愛い布ナプキンに出会いました。これが、すごく効果があつて、生まれて初めて、痛みのない生理を経験しました。「これは友だちにも教えななきゃ」と思うと同時に「今治タオルならもつと気持ちがいいだろうな」と思いました。そして、このことをキッカケにさくらコットンの試作一号が生まれ、「さくらコットン」が始動することとなつたのです。



■ 苦勞の末の産声

それからがとても大変でした。商品を使っただけで、インタビューを繰り返して、商品開発がスタートします。たくさんの方が協力の意味も込めて、使ってくれました。何度も何度も試作して、たくさんの方に意見をもらいながら、凹みながら、そして嬉しい声に元気をもらいながらさくらコットンの商品が生まれました。

今では、ママ★コレに携わってくれた女性達が子どもを連れて、仕事に来てくれています。札幌、中標津、松山、愛知、東京、今の女性が働いてくれています。私たちは、自らの手で居場所を作り、お金を生み出す手段を見つけました。愛媛県の助成金もあって、ビジネスコンテストで100万円を運良く手にして、人に恵まれて、まだまだいろんなことが大変ながらも3期目に突入しました。



さくらコットンシリーズ

私たちは、この事業の為に、大きな覚悟をして、何度も話し合いながら、苦しいこともひとつひとつクリアしてきました。

この先に、「女性が働ける場所を各地に」という気持ちもありますが、なにより「発達障害の子ども達がいつか安心して働ける場所作りをする日があるのではないか？」と会社の運命的なものを感じます。さくらコットンは法人化されましたが、精神的にはNPO的な企業だと思っています。

夢や目標を達成する為に、越えなければいけない壁があつて、風習や常識を越えなければいけない瞬間がありました。そして、なにより覚悟と本気さを見せ、周りがそれを認めざるを得ないほど一生懸命取り組まなければいけない時期があるんだということを感じました。この起業をして感じました。

■ これからについて

さくらコットンのヒエトリパットは、なにもない日に子宮を温めるために使う今治タオルのライナーです。この商品で、「赤ちゃんが出来た」とか、「生理痛が楽になった」とか、私たちは本当に幸せな仕事を見つけた。きつとこの商品が必要とする人はもつともつと増えると思っています。女



作業中

性やハンディを持った人も楽しく働けるシステムを、私が居なくなってもなくなるらないように残していきたいと思っています。夢に向かって、これからも私たちは柔軟に変わり続け、挑戦し続けたいと思っています。